

## 借方

### 資産の部

所有する資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表します。

1. 公共資産	1,916億2,500万円
有形・無形固定資産	1,909億3,900万円
売却可能資産	6億8,600万円
2. 投資等	107億1,600万円
投資及び出資金	15億1,000万円
貸付金	3億 800万円
基金など	71億5,600万円
長期延滞債権	17億1,300万円
その他	2,900万円
3. 流動資産	105億8,700万円
現金・預金	85億7,000万円
未収金など	20億1,700万円
資産合計	2,129億2,800万円

## 貸方

### 負債の部

普通会計や公営事業の地方債、関係団体の長期借入金などを連結し、将来世代の負担を表します。

1. 固定負債	823億1,500万円
地方債	655億9,700万円
長期未払金など	64億7,400万円
退職手当引当金	102億4,400万円
2. 流動負債	99億9,200万円
翌年度償還予定地方債	57億5,100万円
給与引当金など	42億4,100万円
負債合計	923億 700万円

### 純資産の部

現在までの世代が負担した金額や国などから受けた補助金など、正味の資産を表します。

1. 公共資産整備等 (国・県補助金等)	438億1,000万円
2. 公共資産等整備 (一般財源等)	1,046億2,900万円
3. その他一般財源等	△278億1,800万円
純資産合計	1,206億2,100万円
負債・純資産合計	2,129億2,800万円

① 貸借対照表(バランスシート)  
表の左側は資産の部で、行政サービスを行うために保有している財産を表します。公共資産は長期にわたって使用・保有できる資産、流動資産は手持ちの現金や銀行に預けてある預金、1年以内に現金化を予定している資産のことです。表の右側は、これまでどのような財源で資産を形成してきたかを表したもので、負債の部は、第三者に対して返済義務がある債務です。純資産の部は、既に返済済みのものや国庫補助金などを表しています。表の左右が必ず釣り合うように作成することから「バランスシート」とも呼ばれています。

## 行政コスト

1. 人に掛かるコスト (職員の給与、退職手当など)	113億2,600万円
2. 物に掛かるコスト (物品購入、光熱水費、修繕費、減価償却費など)	177億6,800万円
3. 移転支的的なコスト (社会保障給付や各種団体への補助金)	342億1,000万円
4. その他のコスト (地方債の利子など)	15億6,500万円
合計(A)	648億6,900万円

## 経常収益

行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設利用料、手数料、保険料など	
合計(B)	285億4,800万円
純経常行政コスト(A)-(B)	363億2,100万円

② 行政コスト計算書  
資産の形成につながらない、当該年度の行政サービスに掛かる費用を表したものです。生活保護や国民健康保険などの社会保障給付に掛かる「移転支的的なコスト」が全体の約5割を占めていることが分かります。また、サービスの受益者として皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は約285億円で、不足分約363億円は、一般財源や補助金で補っています。

## 期首(22年度末)純資産残高

1,160億6,400万円

## 変動要因

1. 純経常行政コスト	△363億2,100万円
2. 一般財源(地方税、地方交付税など)	229億 900万円
3. 国・県補助金など	164億3,700万円
4. 臨時損益	△1億2,000万円
5. その他	16億5,200万円
合計	45億5,700万円
期末(23年度末)純資産残高	1,206億2,100万円

③ 純資産変動計算書  
貸借対照表の純資産の部に計上されている金額が1年間にどのように変動したかを表しています。23年度は約46億円増加していますが、これは人件費や地方利子などの純経常行政コストが縮減されたことを表しています。

## 期首(22年度末)純資金残高

69億7,900万円

## 当年度現金増減額

1. 経常的収支	92億1,500万円
収入(地方税、交付金)	685億1,300万円
支出(社会保障給付、人件費等)	△592億9,800万円
2. 公共資産整備収支	△14億9,800万円
収入(国・県補助金、地方債等)	30億5,900万円
支出(公共資産整備費等)	△45億5,700万円
3. 投資・財務的収支	△61億2,600万円
収入(貸付金回収額等)	10億6,300万円
支出(地方債償還額等)	△71億8,900万円
合計	15億9,100万円
期末(23年度末)純資金残高	85億7,000万円

④ 資金収支計算書  
キャッシュフロー計算書ともい、1年間の資金収支の状況を經常的収支、公共資産整備収支、投資・財務的収支の3区分で表しています。公共資産整備と投資・財務的収支で赤字となっていますが、經常的収支の黒字分で補うことができ、そのため、単年度収支では約16億円の黒字となります。23年度末の残高約86億円がバランスシートの現金・預金です。